年間授業計画　新様式例

高等学校 令和6年度（3学年用） 教科　地歴　　科目　歴史総合

教　科：　地歴　　科　目：　歴史総合　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　3 学年　男 組～　G1 組

教科担当者：（　男 組：西 ）　（ F1組：西 ）　（ F2組：西 ）　（ G1組：西 ）

使用教科書：　（　実教出版「歴史総合」　　）

教科　地歴　　の目標：

【知識及び技能】　現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】　地理や歴史に関する事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる今日的な課題の解決に向けての構想力、考察、構想したことを効果的に説明したり、議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】　地理や歴史に関する諸事象について、よりよい社会の実現に向けて課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して国際されるる日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することなどの自覚を深める。

科目　歴史総合　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
近現代の歴史の変化に関する諸事象について、世界とそのなかの日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な課題理解の糸口に関する近現代の歴史を理解する。諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。	近現代の歴史の変化に関する事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、事実などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に関する課題を追究し解決や説明に向けて構想したりする力を養う。考察、構想したことを効果的に説明したり、それをもとに議論したりする力を養う。	歴史の歴史の変化に関する諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して国際される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	歴史の扉 ・高校の歴史学習の動機付けと以後の学習に必要な歴史学習の基本的な技能や学び方を身につけさせる。	・指導事項　・空間的な広がりや自己との関係性を意識した学習へと関野を広げさせる。 ・現代に生きる生徒が、過去の事象を考察するために、資料を活用する学習を通して、歴史の就述には、諸資料の解釈と論理性などが求められることに気づかせる。 ・教材：教科書、プリント ・一人１台端末の活用	【知識・技能】 ・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それら日本や日本周辺の地域及び世界の歴史つながっていることを理解している。 ・資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・近代化、国際政治の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と、日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連について考察し、表現している。 ・複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・中学校社会科における学習や成果を生かし、必履修科目である「歴史総合」を学ぶ意義や目的、歴史的な考察の方法や不の特質について、主体的に理解を深めようとしている。	○	○	○	1
	近代化と私たち ・17世紀を含めた18世紀とその前後の日本やアジアにおける生産と流通、江戸幕府の４つの口や開辺地域との貿易などを基に、18世紀の日本からみた東アジアの政治・経済と社会を理解している。 ・18世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸、オスマン帝国における生産と流通、アヘン戦争やペリー来航などを はじめアジアと欧米諸国の関係などを基に、18世紀とその前後の世界の政治と社会を理解している。 ・19世紀後半のヨーロッパの動きと日本の幕末政治の改革、日本と欧米諸国の外交関係などを基に、19世紀後半のヨーロッパと日本との経済と社会を理解している。 ・19世紀から20世紀初頭にかけての欧米諸国の帝国主義の動き、日本と東アジアの関係、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の関係などを基に、19世紀から20世紀初頭にかけてのの東アジアの政治と社会を理解している。	・指導事項：「近代化への胎動」「欧米の市民革命と産業の展開」「欧米諸国と日本の開国開国形形成」「帝国主義の時代」 ・教材：教科書、プリント ・一人１台端末の活用	【知識・技能】 ・17世紀を含めた18世紀とその前後の日本やアジアにおける生産と流通、18世紀から19世紀にかけての日本・清などアジア諸国の政治・経済を理解している。 ・18世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸、オスマン帝国における政治、各地域間や諸やは本なアジア諸国の欧米諸国の貿易などを基に、18世紀とその前後の世界の政治と社会を理解している。 ・19世紀後半のヨーロッパや日本における政治、ヨーロッパ各地域間や日本と欧米諸国の関係などを基に、19世紀後半のヨーロッパと日本の政治と社会を理解している。 ・19世紀から20世紀初頭にかけてのアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、19世紀から20世紀初頭のアジアの経済と社会を理解している。 【思考・判断・表現】 ・17世紀を含めた18世紀とその前後の日本やアジアにおける生産・流通の変化に着目して、主題を設定し、東アジア諸地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、17世紀を含めた18世紀とその前後の日本やアジアにおける経済動の特徴、諸なアジア諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・18世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸、オスマン帝国でのできごとや影響などに着目して、主題を設定し、世界各地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸、東アジア諸国における経済動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・19世紀後半の欧米諸国が日本に与えた影響などに着目して、主題を設定し、ヨーロッパ諸国とその他の地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、19世紀後半のヨーロッパにおける政治動の特徴、ヨーロッパ各地域間の関係、日本と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・19世紀から20世紀初頭にかけての欧米諸国の帝国主義が世界に与えた影響などに着目して、主題を設定し、ヨーロッパ諸国とその他の地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、19世紀から20世紀初頭の日本における政治の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・17世紀を含めた18世紀とその前後の日本やアジアにおける生産と流通の歴史の変化に関する諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して国際される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 ・18世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸とアジアの歴史の変化に関する諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して国際される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 ・19世紀後半のヨーロッパの動きと日本との関係に関する諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して国際される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 ・帝国主義や日本のアジア進出に関する諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して国際される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	○	○	○	25
2学期	国際秩序の変化や大衆化と私たち ・第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと民党政治、大衆消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解している。 ・世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解している。第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解している。 ・経済危機、ナチズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解している。第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解している。	・指導事項：「第一次世界大戦と大衆社会」「経済危機と第二次世界大戦」 ・教材：教科書、プリント ・一人１台端末の活用	【知識・技能】 ・第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと民党政治、大衆消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解している。 ・世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解している。第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解している。 【思考・判断・表現】 ・第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界にもたした影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と特徴、国際社会と国際連盟の特徴などを基に、第一次世界大戦の性格や特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・第一次世界大戦後の社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界にもたした影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と特徴、第二次世界大戦下の社会状況やくらの生活、日本に対する占領政策と国際連盟との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・20世紀前期から戦間期にかけての日本を中心に世界的な動きと関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して国際される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 ・世界恐慌やナチス・ドイツ誕生の頃から第二次世界大戦の後の日本の復活国家までの日本と世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して国際される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	○	○	○	31
3学期	グローバル化と私たち ・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解している。西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、非同盟諸国とその役割、日本の高度経済成長などを基に、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解している。 ・石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解している。冷戦の終結、民主化の進展、地域紛争の拡大と変容、地域紛争の脅威とそれへの対応などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解している。	・指導事項：「冷戦と脱植民地」「多極化する世界」 ・教材：教科書、プリント ・一人１台端末の活用	【知識・技能】 ・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解している。西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、非同盟諸国とその役割、日本の高度経済成長などを基に、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解している。 ・石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解している。冷戦の終結、民主化の進展、地域紛争の脅威とそれへの対応などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解している。 【思考・判断・表現】 ・脱植民地化の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済変容の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。冷戦の各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、貿易・エネルギーや技術革新国際分業経済に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域紛争の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・1950年代の政戦期から1970年代の石油危機で日本の高度経済成長期ではあるころの日本や中心に世界的な動きと関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して国際される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 ・1970年代に入り石油危機などが起きたころから21世紀が現代までの日本と世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して国際される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	○	○	○	12
	・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりする。 ・なお、学習に関する、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	・指導事項：「グローバル化と現代社会」 ・教材：教科書、プリント ・一人１台端末の活用	【知識及び技能】 ・歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・21世紀に入って日本と世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して国際される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	○	○	○	1
							合計 70